

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270700323		
法人名	株式会社 翔里		
事業所名	グループホーム翔里		
所在地	長崎県平戸市津吉町1051		
自己評価作成日	令和5年3月10日	評価結果市町村受理日	令和5年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和5年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様に楽しく生活しやすい、不安なく毎日をご過ごしていただけるよう声掛けを行ったり、話を聴く機会を持つよう心掛けている。リハビリ体操やラジオ体操も毎日行っている。今年度もコロナウイルス感染防止の為ご家族との面会が、できなかったが、広報誌などを送ったり電話をして状況をお伝えした。体調の変化にもスタッフで共有して対応するよう心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの菜園で収穫したゴーヤ、大根、カボチャなど季節の野菜は、皮むきや台拭き、お盆のセッティングなど入居者ができる範囲で準備を担い、食堂から聞こえる調理の音や漂う香りは家庭的雰囲気溢れている。巡回図書館により定期的に図書をホームに置いてもらい、読書好きの入居者の楽しみに繋げている。昨年はコロナ感染もあり、認知症を持つ入居者への対応と感染拡大を防ぐために人手が不足する中でも職員が協力し、励まし合いながら乗り越えることができた点は賞賛したい。コロナ禍以前はホームの敬老会に保育園児が訪れたり、中学生などのボランティアを受け入れていた。地域住民からブロッコリーなどの野菜や新聞紙等をいただくことは現在も継続している。コロナ禍の収束を見据え、次年度は保育園児の遊戯会を披露してもらうことなど、入居者が子ども達とふれあう機会を増やすことで喜びに繋げたいと考えており、今後の地域交流の再開が待たれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 壱番館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で理念など唱和している。又今日一日や心の法則等唱和している。職場の教養も読んでいます。	朝礼時に心の法則『今日一日親切にしよう』『感謝しよう』『素直のなろう』『与えましょう』を唱和している。ユニットごとの理念を職員間で話し合い作成している。尚、家庭的な雰囲気の実現を目指しているが、現在、職員の離職傾向や休暇が重なり、人手不足の傾向が続いていることが課題となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染防止の為、面会制限もあり保育園、小中学校との交流は出来なかったが、地域の美容師さんが訪問してカットをさせて頂いている。検温や体調の確認をして行って頂いた。	コロナ禍以前はホームの敬老会に保育園児が訪れたり、中学生などのボランティアを受け入れていた。地域住民からブロッコリーなどの野菜や新聞紙等をいただくことは現在も継続している。コロナ禍の収束を見据え、次年度は保育園児の遊戯会を披露してもらうことなど、入居者が子ども達とふれあう機会を増やすことで喜びに繋げたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際、認知症について説明を行ったりしている。コロナウイルス感染防止の為、外部へ出かけての活動は出来なかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録は配布している。意見、質問にも答えている。職員にも議事録を閲覧してもらっている。	コロナ禍により直近11月の運営推進会議は書面会議とした。運営推進会議の構成メンバーには民生委員、老人会会長、区長といった地域住民が参加している。書面会議で実施した場合は意見書を同封し、構成メンバーより意見等を得ている。	議事録において、構成メンバーとの意見交換や質疑応答の流れが把握しづらい。今後、書面会議にて実施した場合でも、構成メンバーへ意見や質問等を促し、口頭で確認した場合も意見や経過等が分かるよう議事録に残すことが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所福祉課介護保険班の担当の方に、運営推進会議に参加して頂いている。状況報告を行っていく中で、相談させていただいている。今年はコロナウイルス感染の関係で書面にて行う事もあった。	以前、近隣の特別養護老人ホームわだつみの里が中心となり認知症サポーター養成研修を実施し、そのサポート等をする事があったが、今はできていない。施設長が各種書類を提出するために市の窓口へ出向いており、その際にホームの実情を相談している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を立ち上げ、勉強会を行ったりして取り組んでいる。勉強会も行っている。日頃から言葉遣い等にも職員同士で気を付けている。	訪問調査日において身体拘束を行っている入居者はいない。センサーも使用していない。夜間帯の入居者の動きの察知はナースコールや動作音を確認するようにしている。身体拘束適正化委員会は3か月に1回を予定しているが11月末からのコロナ感染の影響で記録等が確認できなかった。虐待防止委員会も設置しており、身体拘束委員会の開催月とずらして実施している。スピーチロックに関し、施設長や気づいた職員を交え話し合い、助言している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法を職員全員で理解する為に勉強会を行い、DVDを観たり意見交換を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会としては取り上げてないが、成年後見人制度の言葉が出てきた際には説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に数項目契約書の内容説明をし同意を得て捺印を頂いている。契約に関して1時間程かけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設側から利用者様の状況を連絡し、ご家族の要望や意見を聞いたり又、ご家族から状況確認の電話があった場合は状況を伝えたり、本人様と会話して頂いている。	今年度に家族から苦情が挙げた事例は見受けられない。尚、「面会はできるか?」、「オンライン面会はできないか?」などの質問は挙げられている。コロナ禍で会えない家族対応として、事前予約の上窓越し面会で5~10分程度実施している。	ホームに意見箱が確認できなかったので意見箱を設置することが望ましい。また、家族等へ重要事項を説明する際には、重要事項説明書において第三者(外部)評価の受審状況が分かるよう第三者(外部)評価実施日、評価機関名、評価結果の開示状況を記載すると共に外部評価時には家族へアンケート調査を実施し客観的に家族意見等を汲み取る機会となる旨伝えることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の運営職員会で各部署の意見や職員の要望、または施設の設備等の危険箇所の修理などを伝えたりしている。	毎月、全体ミーティングを行い、活発な意見交換を行っている。職員の業務上における相談はユニット主任が窓口になって受け付けている。休暇の取得等については事前に管理者と話し合い、調整している。新型コロナウイルスに対する職員の不安を解消すべく、感染予防対策として使い捨てエプロンや除菌剤等を準備している。	介護現場でのハラスメント対策の強化が求められており、円滑に職員の意見を運営に反映させていく為にも、ホームのハラスメントに関する方針等の明確化及びその周知・啓発、相談(苦情を含む)対応窓口、研修実施等、具体的な体制を整備することが望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ不足等、やる気にはつながっていないが協力し合いながら業務に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス感染防止の為、研修が行われていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染防止の為、三施設で毎年行っていた風船バレーや市主催の福祉祭りなども中止となり交流は出来ていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成の際ご本人の意向や、ご家族の要望などを尋ねている。月1会のミーティングで9名の利用者様の状況や、対応の仕方等について話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今年度はコロナウイルス感染防止の為、面会制限があり電話での対応をしている(要望や状況説明等)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前に、利用者様の情報を集め、ご本人、ご家族からの話を聞き必要とされている支援を提供する努力している。状態に応じて車椅子や歩行器の準備をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	9名の利用者様それぞれの立場に立って一人ひとりに合ったケアに努めている。又その人の能力に応じた手伝いなどをして頂いている。洗濯物たたみ、野菜の皮むきなど		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に話をしたり、電話で直接話をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染防止の為、居室への入室は出来ない。	入居者本人や家族から聞き取った馴染みの人や関係者を職員間で情報交換している。コロナ禍により、馴染みの美容室へ行くことは自粛している。墓参りの希望には家族の協力を得て車から降りずに参拝するなど配慮している。母の日の手紙のやり取りや、職員が入居者本人へ年賀状を出すといった取り組みは継続している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	見守りや声かけをしながら、一人ひとりが孤立しないように支援している。又一人になられたい時はそっと見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かあれば対応できるように情報収集をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの利用者様に合ったケアを目指している。困難な時(意思疎通が困難な方など)筆談などしている。	難聴の方など意思表示が難しい入居者には筆談、または職員が話し掛け、その方の表情や態度などの反応を見て本人本位に検討している。職員は日頃の入居者との会話の中からその方の思いを尋ね、家族へ電話で意向を聴き取り、必要に応じて介護計画に反映し支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や前施設への問い合わせなどを行い情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状態について、表情、顔色、バイタル測定、歩行時の足取り、食事摂取量等で把握に努めている。又、本人様に直接聴くこともある。血圧が高い時は再計測を行い、記録にしてスタッフ同士で把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで利用者様の状況や新たに出た情報を共有して、本人様やご家族の意見を基にケアプランを作成している。また、スタッフ間で現状を踏まえた問題点を作成している。	その方の残存能力を活かし、できる方には洗濯物たたみから収納までの一連の流れを介護計画に盛り込み支援に活かしている。介護計画は6か月で見直しを行っており、実施記録には長期目標・短期目標・サービス内容を記載し、分かりやすく工夫している。入居者毎に担当職員が計画作成担当者に意見を伝え、主任・施設長が中心となって介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や、申し送り帳にて記録してスタッフ間で共有し必要な時は見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスや教材等のマニュアル通りはいかないことが多々ある。その都度、試行錯誤しながら支援にあたっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今はコロナウイルス感染防止の為、例年の様な直接的な交流は出来ない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が受診して頂ける場所は協力依頼をしている。そうでない利用者様のご家族には受診結果を報告しご家族に橋渡しをしている。お一人は往診に来て頂いている。	入居前の本人のかかりつけ医を継続でき、ホーム提携医である平戸市民病院への受診には職員が同行支援を行っている。職員は受診後の結果や次回受診日について家族に電話で報告している。入居前からのかかりつけ医及び他科受診については家族対応であるが、コロナ禍もあり事情によっては職員も同行しており、家族が受診に同行する場合は家族から報告を受け、介護記録に残している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変、急変の際は直ぐに看護師に相談し見てもらっている。必要な時は受診をし、その後ご家族に報告している。看護師配属によりより綿密な相談が出来る様になった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナウイルス感染防止の為、面会はできていないが情報収集は電話などで行った。ご家族の協力もあった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員、ご家族と充分に話し合い状況が変化した際には家族と連絡が取れるよう協力して頂いている。	入居時にホームの看取り支援について説明し、要介護3となった場合を目途に家族へ特別養護老人ホーム等への移行について検討している。ホームのできる限り支援することとしているが、看取り時期の判断は医師が行い、その時点で家族の意思を再確認している。退去後の受け入れ先については近隣の特別養護老人ホーム等を視野に協力体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ノロウイルス、ESBLなどの感染症についての勉強会や、BLSやAEDの使い方について定期的に学ぶようにしている。消防署の協力も得ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難訓練に全員参加し避難経路や避難場所、消火器の設置個所、操作の仕方を確認している。夜間時は特にガスを点けたままで介護業務をしないようにしている。必ず消してからその場を離れている。	避難訓練は通常年2回実施しているが、今年度はコロナの影響で実施できておらず、3月24以降に避難訓練を予定している。入居者の緊急持ち出し一覧表は入居者の全身写真・処方箋・介護保険情報・かかりつけ医・看護サマリー・診療情報提供書を綴じ込み作成している。	訪問調査時において避難訓練が未実施であり、施設長は3月24日以降に実施することであった。今後、速やかに避難訓練を実施することが望まれる。また、ハザードマップは目に付く場所に掲示することが望ましい。自然災害に対する避難訓練の実施や業務継続計画(BCP)の作成に向けて今後具体的に取り組むことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには注意をし、強い口調や命令口調にならないように気をつけている。	職員は居室へ入室する際や排泄時にはノックや扉の開閉、声掛けに留意し、プライバシーに配慮した対応に努めている。スピーチロックについて職員間で意識の確認やスピーチロックに該当する言葉かけについて話し合い、制限しない言葉かけに努めている。定期的に接遇・マナー研修を実施し、職員の接遇意識を高めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の思いや希望を表した際にじっくり聞き、記録に残して情報を共有するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設のスケジュールはあるが、本人様の希望に沿って支援している。また、体調などに合わせて一人ひとりのペースで過ごして頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面やひげそりの支援など、その人らしい身だしなみが出来る様に、支援している。ご家族に衣類の事など協力して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを確認しながらメニューの要望を聞いたり、季節のメニューを提供したりしている。野菜の皮むきなどをして頂いている。	調理担当者を職員ローテーションで決めている。献立は当日の在庫食材を見て決めており、食材は近隣スーパーで購入したり、ホーム菜園で収穫した季節の野菜を使用している。ゴーヤ、大根、カボチャなど旬の野菜を収穫し、皮むきや台拭き、お盆のセッティングなど入居者ができる範囲で準備を担ってもらい、楽しみながら食事を摂っている。入居者の嗜好調査やアレルギーについては入居時に本人及び家族より聴き取っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は10時と15時がお茶の時間に、その他飲みたい時にお茶などを出している。また、体調に配慮して水分を摂って頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が側に付いて義歯洗浄、歯磨きを見守りながら行っている。定期的に道具の消毒や義歯洗浄剤を入れて清潔保持に努めている。歯ブラシの交換(買い換え)も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿排便チェック表を利用し、それぞれの利用者様の間隔を把握し、トイレ誘導を行っている。オムツからパンツの使用に向けて支援している。	排泄チェック表に基づき、入居者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。尿取りパットやリハビリパンツ、オムツ等の使用状況についてはミーティング時に検討し、サイズ等を変更する場合は家族にも伝えている。職員は失禁時等の対応では声掛けに配慮し、さりげない誘導に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の食材を使ったり、定期的に体操等をして体を動かして頂いたり、便秘気味の利用者様には水分を摂って頂いている。また、病院受診の際にドクターへ相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に午後が入浴の時間なので応じて頂いている。入浴は本人様の体調や気分に応じて配慮している。ファンヒーターを使い浴室内の温度調整も行っている。	入浴は月～土曜日で日曜日以外は毎日でも入浴することができる。入浴時には入居者と個別に会話できる機会でもあるため、その際に入居者が話された内容等は介護記録に残し、職員間で共有している。異性介助に拒否反応がある入居者には職員を交代し対応している。入浴順は日々入浴をローテーションすることで対応し、好みの湯温にも配慮している。	脱衣場と浴室には暖房機器を設置し温度調節を行っているが、浴室が広く、温度差が生じる場合がある。ヒートショックを防ぐためにも職員の体感による管理だけではなく、室内外の温度差を把握できるよう温度計等を設置し温度差を管理して支援することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お部屋の温度調整に気を配り、休むのに丁度いい温度にするように気をつけている。体調に合わせて寝具も調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の都度、内服の変更があれば説明し、申し送りや介護記録用紙に記載している。症状の変化についても随時記録している。個々の内服薬をファイルして確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の事前調査で、ある程度利用者様の情報を得ている。出来る事(洗濯物たたみ、掃除等々)は、本人様の力を発揮して頂いている。新聞や読書をされたり、ゲームや体操等をされたりしている。また、好きなコーヒーを飲まれる方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルス感染防止対策の為面会出来ない事が多く、家族との外出や地域の方とのふれ合いも出来なかったが、ドライブには数回行くことができた。	コロナ禍でホーム行事としてのドライブや外食等の外出支援は困難となっているが、職員は好天時に入居者とともにホームの菜園や花壇を散歩したり、できる範囲で入居者が外気に触れることができるよう支援している。感染状況を見極めながら花見や平戸茶市等の外出支援を計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しいものがある時は本人様と買い物に行ったり代行して買ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人様の希望で掛けたり、ご家族からの電話の際にはお話しして頂いている。手紙のやり取りについてもサポートしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や果物等を飾ったり、スタッフ制作の毎月の季節にあった貼り絵を飾っていて利用者様も楽しんでおられる、又、雛飾りや鯉のぼり、七夕飾り等その時期に合った物を飾っている。	共用空間は朝・昼・夕と3回換気を実施している。手すりやテーブル等の要所は次亜塩素酸水やアルコールを用いて拭き掃除を行っている。入居者が職員と一緒に作成した壁絵や雛飾りや鯉のぼり、七夕飾り等のほか入居者の様子を撮った写真を廊下の壁に貼り、ホームの雰囲気づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いの居室への行き来はされていない。物盗られ妄想の関係がある為。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく自宅で使用されていたものを持参されているので、それに合わせたお部屋作りを心掛けている。	居室にはベッドが備え付けで、家族の写真や仏壇や位牌など入居者の馴染みの物を持ち込むことができる。事故防止等の目的で家具類を移動する場合は家族と話し合いながら行っている。居室へ持ち込みできない物品については、入居契約時に家族へ説明している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様に合わせて本人様やご家族、スタッフと話し合いながら、安全に配慮しながら対応している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270700323		
法人名	株式会社 翔里		
事業所名	グループホーム翔里		
所在地	長崎県平戸市津吉町1051		
自己評価作成日	令和5年3月10日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和5年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様に楽しく生活しやすい、不安なく毎日を過ごしていただけるよう声掛けを行ったり、話を聴く機会を持つよう心掛けている。リハビリ体操やラジオ体操も毎日行っている。今年度もコロナウイルス感染防止の為ご家族との面会ができなかったが、広報誌などを送ったり電話をして状況をお伝えした。体調の変化にもスタッフで共有して対応するよう心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

ユニット名 貳番館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で理念などを唱和している。また、貳番館独自の理念も作り唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルス感染防止の為、面会制限があり、例年交流している保育園や小中学校等の皆さんのとの交流は出来なかったが、地域の散髪屋さんを訪ねてカットしてもらっている。その際は検温や消毒をしてもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際、認知症について説明を行ったりしている。コロナウィルス感染防止の為、外部へ出かけての活動は出来なかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者の方から意見を頂いており、検討事項などについて進展状況を次回開催時に報告している。職員にも議事録を閲覧してもらえるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所福祉課介護保険班の担当の方に、運営推進会議に参加して頂いている。状況報告を行っていく中で、相談させていただいている。今年はコロナウィルス感染の関係で書面にて行う事もあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を立ち上げ、定期的に委員会や勉強会を行い取り組んでいる。また、言葉の拘束等にも気をつけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法を職員全員で理解する為に勉強会を行い、DVDを観たり意見交換を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会としては取り上げてないが、成年後見人制度の言葉が出てきた際には説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に数項目契約書の内容説明をし同意を得て捺印を頂いている。契約に関して1時間程かけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方より要望や質問を受ける事がある。何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意し、意見として聞いた内容についてはミーティング等で話し合い、反映させている。また、ご家族からの状況確認の電話連絡もあり、その際は状況を伝えたり本人様と会話して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月二回の運営職員会議で各部署から意見を出し合ったり、朝礼やミーティングの際も意見や提案を聞いている。反映出来ることは順次行ったり、話合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ不足等で、職場環境や・条件の整備は充分ではないが、改善出来る点は少しずつでも改善しながら、協力し合いながら業務に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス感染防止の為、外部研修が行われていない。施設内勉強会は毎月実施している。個人の資格取得の際は休みの日などを配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染防止の為、三施設で毎年行っていた風船バレーや市主催の福祉祭りなども中止となり交流は出来ていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の情報提供を基にミーティングを行い、サービス内容について話し合っている。また何かあれば職員同士で情報を共有し本人様の安心を確保するよう努めている。場合によってはご家族にも協力して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がこれまで苦勞してこられた事など傾聴し、ご家族の意向などを聞き出せるように話を聴く機会を持つようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前に、利用者様の情報を集め、ご本人、ご家族からの話を聞き必要とされている支援を提供する努力している。状態に応じて車椅子や歩行器の準備をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	9名の利用者様それぞれの立場に立って一人ひとりに合ったケアに努めている。又その人の能力に応じた手伝いなどをして頂いている。利用者様に担当を決め、毎月のミーティング等で話し合うようになっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様が生活していく上で不安な事や不満を聞いた際、面会や電話時などにご家族に伝えて、本人様と橋渡しをして少しでも解消できるようにしている。また、病院受診の付き添いをしてもらったり、難しい場合は受診結果の情報をご家族に伝えて、共に本人様を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルス感染防止の為、馴染みの人との交流や場所に行くのが難しくなっている。制限内で、関係が途切れないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	見守りや声かけをしながら、一人ひとりが孤立しないように支援している。又一人になられたい時はそっと見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かあれば対応できるように情報収集をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの利用者様に合ったケアを目指している。困難な時(意思疎通が困難な方など)筆談やご家族に協力を得ている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や前施設からの情報提供書や前施設への問い合わせなどを行い情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状態について、表情、顔色、バイタル測定、歩行時の足取り、食事摂取量等で把握に努めている。又、本人様に直接聴くこともある。血圧が高い時は再計測を行い、記録にしてスタッフ同士で把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで利用者様の状況や新たに出た情報を共有して、本人様やご家族の意見を基にケアプランを作成している。また、スタッフ間で現状を踏まえた問題点を作成している。まだ反映が充分ではないので改善が必要。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や、申し送り帳にて記録してスタッフ間で共有し必要な時は見直しにつなげている。見直しが追いついていない部分があるので努めていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスや教材等のマニュアル通りはいかないことが多々ある。その都度、試行錯誤しながら支援にあたっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今はコロナウイルス感染防止の為、例年の様な直接的な交流は出来ていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が受診して頂ける場所は協力依頼をしている。そうでない利用者様のご家族には受診結果を報告しご家族に橋渡しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変、急変の際は直ぐに看護師に相談し見てもらっている。必要な時は受診をし、その後ご家族に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナウイルス感染防止の為、面会はできていないが情報収集は洗濯物交換の際や電話などで行った。ご家族の協力もあった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員、ご家族と十分に話し合い状況が変化した際には家族と連絡が取れるよう協力して頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ノロウイルス、ESBLなどの感染症についての勉強会や、BLSやAEDの使い方について定期的に学ぶようにしている。消防署の協力も得ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難訓練に全員参加し避難経路や避難場所、消火器の設置個所、操作の仕方を確認している。夜勤時は特にガスを点けたままで介護業務をしないようにしている。必ず消してからその場を離れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには注意をし、強い口調や命令口調にならないように気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の思いや希望を表した際に傾聴し、記録に残して情報を共有するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設のスケジュールはあるが、本人様の希望に沿って支援している。また、体調などに合わせて一人ひとりのペースで過ごして頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面やひげそりの支援など、その人らしい身だしなみが出来る様に、支援している。ご家族に衣類の事など協力して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを確認しながらメニューの要望を聞いたり、季節のメニューを提供したりしている。野菜の皮むきなどをして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は10時と15時がお茶の時間に、その他飲みたい時にお茶などを出している。また、体調に配慮して水分を摂って頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が側に付いて義歯洗浄、歯磨きを見守りながら行っている。定期的に道具の消毒や義歯洗浄剤を入れて清潔保持に努めている。歯ブラシの交換(買い換え)も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿排便チェック表を利用し、それぞれの利用者様の間隔を把握し、トイレでの排泄誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の食材を使ったり、定期的に体操等をして体を動かして頂いたり、便秘気味の利用者様には水分を摂って頂いている。また、病院受診の際にドクターへ相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に午後が入浴の時間なので応じて頂いている。入浴は本人様の体調や気分に応じて配慮している。冷暖房を使い浴室内の温度調整も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お部屋の温度調節に気を配り、睡眠に丁度良い温度にするように気掛けている。室温、体調に温度に合わせて寝具も調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の都度、内服の変更等あれば説明し、申し送りや介護記録用紙に記載している。症状の変化についても随時記載している。個々の内服薬表をファイルして確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の事前調査である程度利用者様の情報を得ている。出来る事(洗濯物たたみ、掃除等々)は、本人様の力を発揮して頂いてる。新聞や本を読まれたり、ゲームや体操等をされたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクリエーションの日を設け、散歩やドライブ等を行っている。コロナ感染対策の為外出は制限している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しいものがある時は、本人様と買い物に行ったり代行して買ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人様の希望で掛けたり、ご家族からの電話の際にはお話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって飾りなどを変え、季節感を出している。室温なども調整し、心地よく過ごせるよう工夫している。清掃も毎日している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりテレビを見たり新聞を読まれたり、ソファで気の合う利用者様同士で過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく自宅で利用されていたものを持参されているので、それに合わせたお部屋作りを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様に合わせて本人様やご家族、スタッフと話し合いながら、安全に配慮しながら対応している。		